

放送日： 平成 20 年 6 月 15 日
タイトル： 関節リウマチという病気について
担当者： 医師 清水 和也

本日は関節リウマチという病気についてお話しをさせていただきます。関節リウマチというのは手足の関節が腫れてくることによって、関節の痛みが続いて変形が生じてくる病気で、全国で見ますと 70 万人ぐらいの患者さんがおられるとみられています。女性の方に多い病気ではありますが男女の比はおよそ 1 : 2 ぐらいであり、男性の方が決して少ないわけではありません。発病年齢で見ますと、40 歳台がピークですが、20 歳前から 80 歳まで幅広い年齢層に起こってきます。この病気の原因はまだ分かっていませんが、本来は自分の体を守るために備わっている免疫という機能の異常が大きく関わっていることや、症状を悪くさせていく仕組みなどについてはかなり分かってきています。従って、原因の根本から治すことはまだできませんが、病気をうまくコントロールして症状を悪化させないようにすることは十分可能になってきています。

関節リウマチにみられる初期症状は、手や足の指といったような小さな関節の腫れと痛みであることが多く、それとともに朝のこわばりといった特有の症状も知られています。なぜ朝のこわばりかと申しますと、睡眠中は体を動かさないのので起床時には関節が浮腫んだような状態になっています。そして、起き上がってから手足を動かしているうちに関節の周りのむくみが次第に減ってきて、午後になるとかなり楽になってくるというようなことがよく見られるからです。また、膝や肩や肘などといった大きな関節から始まることも少なくはありませんが、一般には病気の進行と悪化に伴って大きな関節に障害が生じてくることとなります。

この病気の一つ大きな問題は時間の経過とともに、全身各所の関節に変形や硬直が生じ、手足の機能が次第に奪われて行くところにあります。このような場合には、変形した関節を人工の関節に置き換えたり、痛んだ骨の一部を取り除いて関節の動きを改善させるような関節形成術と呼ばれる手術などが頻繁に行われています。しかし、手術に至らないように機能障害を最小限に抑えるのが理想でありその主体となるのはやはり薬物療法です。特に手首や指の関節変形は発症後の早い時期から進行するとされ、出来得る限り早期から強力な薬剤を投与することが提唱されています。一旦生じた変形を元に戻すことが極めて困難であるからです。従来のような、副作用重視の立場で軽い薬から徐々に強い薬へという考えは過去のものとなっています。この目的に遭う薬剤も次々と登場してきており、選択技も広がってきております。勿論、薬による副作用が心配になりますが、十分な診察と検査を行いながら迅速に対応することで悪化を回避することが出来ます。

しかし、このように十分な治療が行われていても関節変形の進行を抑えきれないというのが実情でしたが、ここ 2・3 年で新たに生物学的製剤と呼ばれる注射製剤が使用できるようになり、治癒を目指す治療に変貌を遂げようとしています。

従来薬剤に比べてその効果は非常に高いのですが、値段も高いというのが一つの問題点として挙げられます。現在のところ、保険がなければ年間 150 万円ぐらいの費用となりますので、3 割負担の方であれば年間約 50 万円が自己負担となります。しかも 10 年、20 年と継続していくことも考えておかねばなりません。しかし、これを用いずにももしも悪化の一途を辿れば、それ以上の負担を強く強いられることもあり判断の難しいところがあります。リウマチ専門の医師とよく相談されればよい方向が示されると思います。